

令和3年産水稻の作況調査結果と当面の技術対策

技術支援課
(普及指導室)

生育ステージ	<p>早期：減数分裂期～穂ばらみ期</p> <p>早植：分けつ盛期～幼穂形成期</p> <p>普通期：活着期～分けつ盛期</p>
生育概況	<p>早期：「コシヒカリ」の生育は順調で、出穂期は平年並が見込まれる。</p> <p>早植：生育は概ね順調だが、日照不足のためやや軟弱に生育している。葉いもちの発生が懸念される。</p> <p>普通期：移植後の一時的な低温や日照不足のため初期生育がやや遅れており、分けつもやや少ない。葉いもちの発生が懸念される。</p>

1 気象経過 (前橋地方気象台の気象データ、7月は第3半旬までのデータ、参考資料参照)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
気温(平年差)	+0.9℃	+1.1℃	+0.8℃	-1.2℃	—	—	—
降水量(平年比)	65%	70%	125%	242%	—	—	—
日照時間(平年比)	111%	85%	99%	53%	—	—	—

2 生育概況

(1) 概要

ア 早期・早植栽培 (6月15日以前の田植)

早期栽培は、生育初期が良好だったため茎数が確保されており生育は順調。縞葉枯病は平年より少ないが、葉いもちや藻類の発生がやや多い。「コシヒカリ」の出穂期は平年並となる見込み。

早植栽培は、育苗期の過湿や高温管理により一部で苗立枯病等が発生したが、平年より病害の発生は少ない。本田の生育は概ね順調であるが、日照不足の影響でやや軟弱な生育となっており、茎数は平年並～やや少ない。一部で藻類が多く、葉いもちが見られており発病の拡大が懸念される。一部で除草剤の葉害が散見され、中山間地ではイネドロオイムシやイネミズゾウムシの発生がやや多い。

イ 普通期栽培 (6月16日以降の田植)

麦の収穫が早まったため、移植作業はやや早く始まり平年並に終了した。移植後の一時的な低温や日照不足の影響により、活着や初期生育が遅れており、茎数もやや少ない。育苗段階でいもち病が散見されており、本田での葉いもちの発生が懸念される。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

ア 早期・早植栽培

藻類の発生が多い。

中山間地域の一部でイネドロオイムシやイネミズゾウムシの発生がやや多い。

一部で葉いもち発生している。

イ 普通期栽培

一部でガス害や除草剤の薬害、赤枯症が見られる。

各地で育苗期間中にいもち病が散見された。

(3) 作況ほ等の調査結果

ア 作況ほの調査結果（表1参照）

県平均の移植後20日の草丈は30cm(過去平均比99%)、茎数は158本/m²(同87%)、移植後40日の草丈は55cm(同101%)、茎数は467本/m²(同97%)であった。

イ 農業技術センターの生育基本調査結果

稲麦研究センター（6月24日移植）

「ゆめまつり」の移植後20日の草丈は38cm(過去8か年平均比104%)、231本/m²(同62%)であった。

東部地域研究センター（6月1日移植）

「ゆめまつり」の移植後20日の草丈は32cm(過去10か年平均比103%)、茎数は383本/m²(同96%)、移植後40日の草丈は68cm(同110%)、茎数は637本/m²(同88%)であった。

表1 水稻作況ほ調査結果（地域別・作期別）

()内は平年比

調査項目 地区	移植期 月/日	移植後20日調査			移植後40日調査		
		か所数	草丈 cm	茎数 本/m ²	か所数	草丈 cm	茎数 本/m ²
県	6/4 (0)	14/15	30(99)	158(87)	9/15	55(101)	467(97)
中 部	6/14(-1)	4/4	33(104)	177(85)	1/4	66(102)	375(91)
西 部	6/10(-1)	4/4	28(91)	135(79)	2/4	58(90)	493(109)
北 部	5/21(+1)	4/4	29(98)	153(94)	4/4	48(102)	477(96)
東 部	6/2 (+1)	3/3	31(103)	164(86)	2/3	61(108)	470(90)
早期・早植	5/26(-1)	10/10	28(96)	169(87)	9/10	55(101)	467(97)
普通期	6/21(0)	4/5	36(106)	131(89)	0/5	—	—

注1) 県、地区、作期別の平均値はいずれも算術平均とした。

2) 移植期欄の()内の「-」は早い、「+」は遅いを示す。

3) 7月15日現在で調査時期となったほ場のみのもので、か所数欄は「調査か所/設置か所数」を示す。

4) 早期・早植：6月15日以前の田植。普通期：6月16日以降の田植。

(4) 作柄のまとめ

各地域の作柄は、すべて「並」であり、県全体では「並」が見込まれる（表2）。

表2 地帯別作柄概況 () 内は普及指導課・地区農業指導センター

地域別	作柄	作 柄 概 況
中部 (中部) (渋川) (伊勢崎)	並	<p>・早植栽培：分げつ後期～幼穂形成始期。生育は軟弱徒長傾向。一部でイネミズゾウムシが発生。葉いもちの発生が懸念される。降雨のため一部で中干しが適正に行えていない(渋川)。</p> <p>・普通期栽培：活着期～分げつ盛期。田植えはやや早く始まり、平年並に終了した。6月下旬以降は寡照で経過したため、生育は軟弱で分げつが少なく若干遅れている。葉害やガス害は平年より少ないが一部で発生。一部で育苗中にいもち病が発生し、寡照のため本田での発生も懸念される。除草剤の葉害(中部)、赤枯症(渋川)が散見される。</p>
西部 (西部) (藤岡) (富岡)	並	<p>・早植栽培：分げつ後期～幼穂形成期。生育は平年並に回復しつつある。6月下旬からの寡照により一部で葉いもちが発生。</p> <p>・普通期栽培：活着期～分げつ盛期。田植えはやや早く始まり平年並に終了。7月上旬の低温や日照不足のため遅く植えたほ場では活着や初期生育が遅れ、分げつもやや少ない。苗いもちや置き苗に葉いもちが散見されているため、本田での発病が懸念される。</p>
北部 (吾妻) (利根沼田)	並	<p>・早植栽培：分げつ盛期～幼穂形成期。育苗期は一部でもみ枯細菌病(吾妻)、過湿や高温管理による苗立枯病が散見された(利根沼田)。移植後の生育は順調。本田では藻類、イネドロオイムシの発生が多く、一部でイネミズゾウムシがやや多い(吾妻)。葉いもちも散見されており、今後の拡大が懸念される。</p>
東部 (東部) (桐生) (館林)	並	<p>・早期栽培：減数分裂期～穂ばらみ期。生育前半がやや高温で経過したため茎数はやや多い。出穂期は平年並の見込み。縮葉枯病は少ないが、葉いもち、藻類が多い。</p> <p>・早植栽培：分げつ盛期～幼穂形成期。概ね生育は順調だが日照不足の影響により生育は軟弱で茎数は平年並～やや少ない。除草剤の葉害がやや多く(桐生)、一部で葉いもち・藻類が発生。</p> <p>・普通期栽培：分げつ前期～分げつ盛期。田植えは平年並に終了。低温や寡照のため生育が軟弱で分げつの発生も遅れている。除草剤の葉害がやや多い(館林)。</p>

3 技術対策

(1) 全般

葉いもち等の発生等が懸念されるため、早期発見に努め、発病が認められる場合は早急に防除を行う。特に急性型病斑が見られる場合はより緊急性が高ことに注意する。

(2) 早期・早植栽培

- ア 日照不足が続く場合は昼間止め水夜間かん水を徹底し、水温の保持を図る。
- イ 穂肥は葉色や生育量および幼穂長を確認して、適期・適量を施用して収量の確保と高温障害の軽減を図る。一方、いもち病発生ほ場では発病が助長されるため追肥を控える。
- ウ 病害虫は、今後の発生状況や発生予察情報を踏まえ、効果的防除に心がける。いもち病は早期発見に努め、発病が認められる場合は早急に防除を行う。
- エ 中干し後および出穂後はうわ根を傷めない程度の間断かん水により根の健全化を図る。出穂後が高温となった場合は、飽水管理^{*}や夜間入水を実施し、ほ場の過乾燥に注意する。また、高温・強風時や台風襲来時は、風がやむまで湛水管理を行い、品質低下を防止する(※飽水管理とは、足跡に水が残る位に減水したら入水する管理法)。

(3) 普通期栽培

- ア 水管理は浅水で管理を行い、分げつの確保を図る。
- イ 有機物の分解によるガス害が懸念されるほ場では、間断かん水や軽度の中干しにより

- ガスの放出を促す。有効茎が確保できたほ場では中干しを開始し、生育量の制御と根の健全化を図る。中干し後は根腐れ防止のため間断かん水を実施する。
- ウ 中干しに合わせ、けい酸カリ（20～40kg/10a）または塩化加里（10kg/10a）の追肥を行い、根の機能回復を図る。
- エ 穂肥は葉色や生育量および幼穂長を確認して、適期・適量を施用して収量の確保と高温障害の軽減を図る。一方、いもち病発生ほ場では発病が助長されるため追肥を控える。
- オ 病害虫の発生状況や発生予察情報を踏まえ、効果的防除を心がける。いもち病は、発生源となる置き苗を早期に処分するとともに、早期発見・早期防除に努める。稲こうじ病の発病履歴のあるほ場では、薬剤により適期が異なるが出穂20～10日前を目安に防除を行う。

《参考資料》

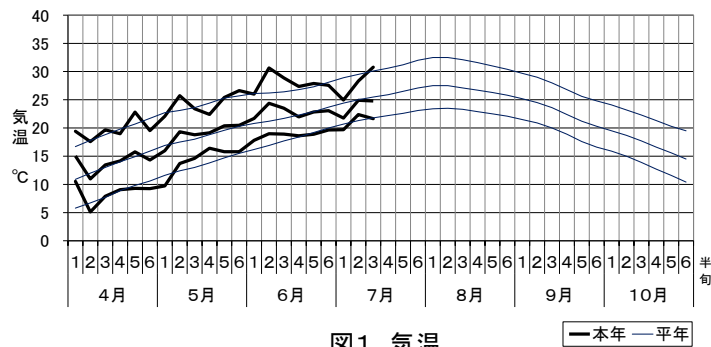


図1 気温

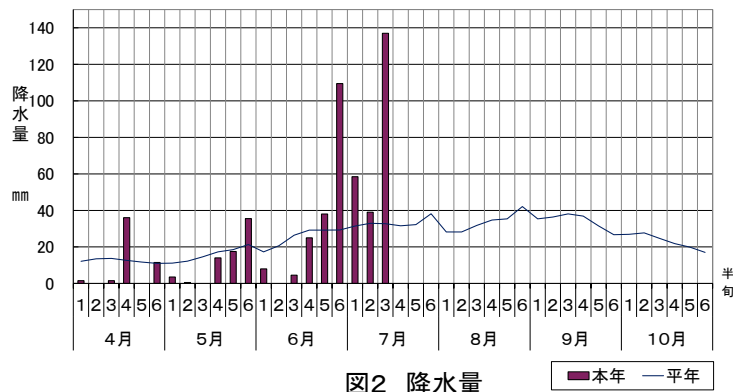


図2 降水量

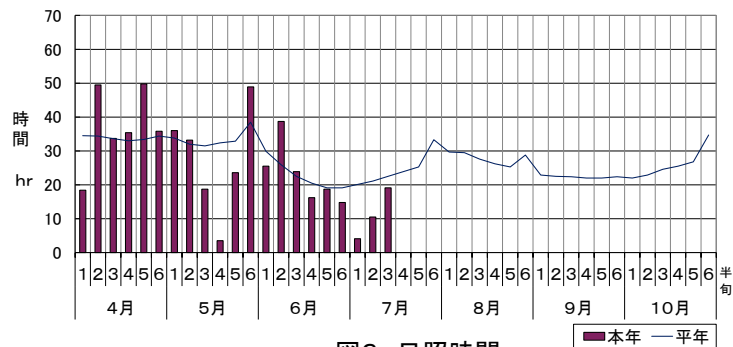


図3 日照時間